

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	まずは、具体的なイメージを持って、理念を作りあげる必要がある。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念を分かりやすく掘り下げ、職員全体で話し合い、意見の統一を図りたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	月のおたより（あすかだより）に、理念を盛り込んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	交流の場を増やしたり、外に出かける機会を増やしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	自治会、老人会（一般の方）の人々との交流を増やしていきたい。受身の姿勢ではなく、施設側から出かけていきたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>過去には実習生の受け入れを行っていたが、現在は休止中である。施設間の実習の受け入れはしている。また、パンフレット等に相談・受け入れを記載したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>目的や意義が分かっているが、自己のユニットでは評価を職員全員で行えていないため、実践にも繋がりにくい所もあり、まずは時間を作り、評価を全員で行えるようにしたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>地域の人たちが、施設のことをあまり理解していないため、理解してもらえるように見学ができる体制を作りたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>関係づくりは積極的に行っている。意見等をしっかり聴き、サービスの向上にむすびつけている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>カンファレンスを活用したり、研修の機会などがあれば参加していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>カンファレンスにて勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解、遵守に向けて、取り組みを行ってほしい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療との連携や状態変化時の対応、起こりえるリスクなどを説明し、相談できている。	○	契約時、解約時以外でも、話をよく聞いて、対応説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談員の派遣をしてもらっているが、職員自身が入居者の方の立場に立って考える、思いを察するという点に、少し不十分さを感じる。	○	反映させることはもちろんのこととして、入居者の方の立場に立って考えるということ、日頃から行っていけるようにしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には声をかけ、現在の状態を報告。状態変化時には、電話連絡にて伝えている。行事などについては、毎月便りの発行を行っている。	○	各ユニットの責任者が面会時に挨拶を行い、報告をしている。施設長は、体調の変化があった入居者の家族に対して、当日に必ず連絡をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、意見箱の設置はしているが、家族等は意見、苦情などを表せていないと感じられる。	○	意見等を気軽に伝えられるような機会、積極的に聴く努力が必要と感じる。また、家族会でも、家族同士で話し合えるような時間をとる等、工夫したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れについては一方的ではあるが、意見や要望については月一回のカンファレンス以外にも、時間帯によっては業務終了後などでも話し合っている。	○	今後は、運営者とも話し合いの場面を作っていくたい。管理者と職員との話し合いはできているが、結果が出ていないことがある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務上の人数は確保されているが、余裕があるとは言えず、職員の急病時など、応援してくれる人の確保が難しい。	○	時間を確保し、話し合いが取れるように勤務体制を作っていくたい。職員同士での話し合いで対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に対して最小限に抑えられていると思うが、各ユニットの安定等が、今は最優先されているところがあり、入居者へのダメージまでは考えられていない。	○	異動が必要な際には、入居者、家族のことも考え、もしくは、ダメージを少しでも防ぐ配慮をしていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年数順に研修が行われているが、少なく（自主的なものについては掲示がある）○J Tの確保としては不足。	○	教育係りのレベルアップを図ると共に、教育体制の構築が必要である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は、自主的なもの以外では、研修の場のみとなっている。	○	相互研修会や、他施設への見学ができるシステム等を作る必要がある。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	人間関係間のストレスについては、職員の配置等により、軽減を図られている。	○	今後も継続し、職員のストレス軽減に努めていきたい。（個々で解決している方が大半）
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持てる職場環境、条件としては具体性が感じられない。	○	資格取得、研修実施日、内容等は職員に周知している。積極的に自分をアピールできる雰囲気作りを行い、少しでも向上心を持って働けるような職場作りを目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が決まった後、本人から聞けることは少ないが、家族から入居時などに状況を詳しく聞き、不安などを理解しようと努めている。	○ 本人の意見、希望をもう少し尊重していきたい。なかなか本人から言葉を聞くことができないため、少しの言葉表情から情報を収集し、全職員に周知し、信頼にむすびつけたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同じく、入居時や来訪時には家族の困っていることや、不安なこと等を把握できるように努めている。	○ 話し合いが気軽にできる窓口作りを心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用については、一方的に決まっていることが多く、他のサービス利用などの検討は、他の部署が行った後となっている。	○ 判断能力を身に付けるため、研修等でスキルアップをしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族の方などが見学等には来られるが、安定した使用に対して段階的な配慮は少ない。	○ 他の利用者とのかかわりを大切にしている。(他者との信頼関係を築く)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多くはできていないが、入居者の方より教えてもらうという場面、会話などを心がけている。	○ 支え、支え合うという場を、もっと日常の中で作る必要があり、その関係を職員がもっと理解するように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各家族において理由があるが、本人の生活を共に支援していく関係を築けている家族は少ない。	○	施設の行事に参加してもらうように、便り等で案内をする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が疎遠となってしまっている場合の修復に向けて、具体的な取り組みは行われていない。	○	気軽に遊びに来てもらえるように、行事などに工夫の必要がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力上、行えている方もいるが、友人の家に遊びに行ったり等、継続的な支援には配慮不足を感じる。	○	こちらからもつながりを作っていく機会を増やしていきたい。(電話などでお礼をいう)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	みんなで楽しく過ごせる時間や場面作り等、また、入居者同士の会話の仲介などに努めている。	○	ソファで、穏やかな時間を入居者同士が仲良く過ごされるような雰囲気作りをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ系列にはなるが、他の事業所へ移られた方の所に、入居者の方と一緒に遊びに行ったりしている。	○	気軽に遊びに来てもらえるように工夫する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情等から真意を伺ったり、その人の立場に立って物事などを考えるように努めている。	○ その人の立場に立って考えるという考えを、もっと多くの職員が理解し、関わっていきけるように取り組みたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より、よく話を聞き、他には来訪時に、入居の日々の生活の中で、個性や価値観等の把握に努めている。	○ 面会時に現状報告し、また、情報を得ている。生活歴を把握するのも困難になっている。家族の方も、記憶が一定でないといわれる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活リズム、全体像の把握に努めており、支援しているが、できないという情報が基になっていることが多い。	○ できないという情報にとらわれず、できることから、本人の生活、全体像を把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者主体となるよう、その人の立場に立った考え方で作成できるように努めているが、個別の具体的な計画が作成できているとはいえない。	○ 職員の良い意見も多いが、自己の力不足もあり、うまく計画に反映されていない部分が多く、施設長（ケアマネージャー）等に相談しながら作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時や期間が終了する前には、検討し、見直しは行っている。	○ ご家族との話し合いをもっと積極的に行い、反映させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など、個別に記録しているが、医療的なことが多い。ケアに対しての不足。	○	ケアについての結果や、気づきを多く記録していく必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性については、今のところ医療面に関してのみで、往診や医療処置を受けながらの生活の継続を支援している。	○	急変時は対応を早くし、今後も継続していきたい。グループホームで、安心して生活ができるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	最近では減っているが、ボランティアグループと連携を取り、行事を行ったり、近隣小学校との交流を定期的に行っている。	○	警察との協力は少ないため、今後働きかけていきたい。(利用者がいなくなったケースの連携など)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、訪問理美容サービスのみとなっている。	○	散髪など、利用者の要望で実施している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居については、地域包括支援センターと協働しながら行われている。	○	運営推進会議に出席してもらい、意見を参考にしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診の希望などの話し合いができており、状態に応じてのケースもあるが、家族の希望する医療機関での受診が行えるよう、支援できている。	○	かかりつけの医師を自由に選択できるようにしている。変化時や家族の希望時には、すぐに対応できるように連絡をしっかりとっている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関が脳外科医師もおり、治療方針や指示、助言も受けられるようになっている。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間相談が可能であり、日頃から健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。	○	正確な情報が伝わるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人の普段の状況や特徴など、情報交換が行われており、施設内で対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようになっている。	○	入院中も症状を把握し、いつも対応できるようにしたい。(入院中もできる限り情報収集に努めている。)退院され、グループホームに戻られた時、家族の方に安心していただけるようにしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合等は、家族、医師等話し合い、方針などが具体的に決められている。	○	元気なときに話し合いを行うのは難しいが、面会時や体調が悪い時に話し合うようにしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院が隣接していることもあり、重度化した場合などほとんどの方が入院されるが、急変した場合などでも、すぐ対応できるよう医療機関とも連携できている。	○	医療チームとの支援方法の確認を、しっかりと行っていきたい。医療連携マニュアル等で対応していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換は行えている。訪問に行く際は、自主的なもののみとなっている。	○	気持ちのこもった情報提供をしていきたい。(詳しい情報提供、サマリー作りを行っている。)居所が変更する時、前後して関係者に情報提供を積極的に行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人を傷つけてしまわないよう、さり気ない言葉かけや対応に気を配り、点検している。	○ 秘密保持に関しても、職員の入れ替わり等があり、新しい職員も多く、再度の周知徹底を行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方自身が決定する場面の提供が、あまり行えていない。	○ レクリエーション等でも、複数の選択肢を提案し、自身が決定する場面を増やしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や一つひとつの動作においては、個々のペースに合わせているが、基本的には一日の流れがあり、それに対し、入居者の方が合わせてくれていると感じる。	○ 職員の意識や業務の見直しにより、改善できる部分もあるので取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装の乱れ等はさりげなくフォローできているが、馴染みの理美容院は、家族の協力上、一部の方のみとなっている。	○ 自ら、ヘアスタイルをリクエストする方もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房にて料理された物が上がっており、メニューにはあまり入居者の方の意見が反映されていない。お米洗いやお茶の準備等は、入居者の方と共に行っている。	○ 1か月に1～2回の昼食会を増やし、入居者の方の意見を取り入れながらメニューを決めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の協力の下、おやつ、飲み物に関しては、入居者の方によって、ある程度支援できている。	○	個々に持ってきていただき、施設側で預かり、ご本人が希望された時、食べていただいている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンに応じて、個々に対応できている。また、できるだけおむつは使用しないよう支援している。	○	チェック表を活用し、(トイレ誘導時の有無の時間を記入)支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日時が決まっており、ほとんどの入居者の方には合わせていただいている。	○	まずは、職員のローテーションの工夫などで、可能か検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や希望等を考慮して、休息ができるよう支援している。また、医師とも相談し、薬剤のあり方など、具体的な調整に努めている。	○	常に状態の把握に努め、適切な対応ができている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	限られてはいるが、お願いできそうなことは頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	生きる活力になるような楽しみごと、気晴らしを考え、支援できるよう工夫していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状的には、金銭管理できる人がほとんどいない。できる人には、買い物支援と金銭受けを合わせてしている。	○	自分で買い物に出ている。本人が申し出があれば、希望に添えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に添うまでにはいかないが、天候等によって散歩に出かけたり、行事として、ドライブに出かけたりしている。	○	もっと日常的に、買い物の支援等を行えるように工夫したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前は、動物園や神社の行事など、入居者の声も聞かれ、実現できるよう検討し、支援に繋げていたが、現状は難しい状況となっている。	○	家族の協力で実施できている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方だが、希望時にはいつでも電話が利用できるよう支援している。	○	家族の了解を得ている方には、希望があれば電話をかけるようにしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	過ごされる場合は限られているが、いつでも気軽に訪問できるように、挨拶や声かけを行っている。	○	ゆっくりとくつろげる場所作りがしたい。(現状の空間では難しいので、居心地の良い雰囲気、環境作りを目指している。)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状的には生命に危険があると判断された方、家族の希望のある方については、できるだけ使用時間を減らしてはいるが、安全ベルトを使用している時間帯がある。	○	家族の方への理解、同意はもちろんのこと、職員全員が拘束に対し意識改革を行い、状態の安定や安全に向けたケアに段階的に取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物上、安全面を考慮しているためとはいえ、出入り口には鍵を使用している。	○	出て行く気配を職員が見落さない、見守りや連携プレーにより解除できる可能性はあるが、事業所、職員全体の理解が必要。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員同士、声かけを行いながら、入居者の方の見守りやすい位置におり、夜間も数時間ごとに様子を確認している。</p>	○	<p>入居者がどのような動きをされるか、見守りしやすい場所にいる。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の状況に応じて、保管管理が必要な物、入居者の方が使う時に注意が必要な物などに分けて、管理している。</p>	○	<p>職員が入居者の状況に合わせ、方法を考え、対応している。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ヒヤリハットを記録し、申し送り時など職員に共有認識を図っており、また、予測される危険を検討し、未然に防ぐため努めている。</p>	○	<p>ヒヤリハット等で再確認し、勉強会を行っています。今後も、事故防止に努めていきたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急時の対応についてはマニュアルを整備しているが、隣接する病院を頼る体制となっており、初期対応の訓練等は定期的に行われていない。</p>	○	<p>実技を含む勉強会を実施し、体験、習得できるよう取り組みたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認が行われている。また、運営推進会議で協力を呼びかけている。</p>	○	<p>災害が実際に発生した時、どのようなことが起きるか予測できないので、不安に訴える職員が多い。今後、運営推進会議等で検討していきたい。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>状況変化に応じて、起こり得るリスクについては、来訪時に説明し、話し合っている。</p>	○	<p>転倒を気にされ、動きを制限される家族の方には、十分な説明をし、理解をしてもらっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から情報把握に努めており、少しでも顔色や様子等の変化が見られれば、バイタルチェックを行い、看護師に相談、対応している。	○ 申し送りノートや朝の申し送り等で把握し、個別でも情報の収集に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、服薬を確認しており、処方箋を整理し、内容を把握できるようにしている。	○ 各自で服用できない方には、職員が必ず介助を行っている。薬の名前までは覚えられないが、今服薬中の薬をなぜ飲んでいるのかという知識を持ってもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分に注意し、乳製品が週3回摂り入れられており、毎日体操する機会を設けている。	○ 医療より出ている薬、また、運動、食事等で、気持ちよく排便できるように支援している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後とは言えないが、夕食後には声かけや見守り、介助が行えている。	○ 自己でできない方にハミガキ、うがいが困難な方に対しては介助支援をしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては栄養士の方が管理しており、食事摂取状況については毎日記録し、職員が情報を共有している。	○ その方に合った量を把握し、できる限り、気持ちよく食事ができるようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に至った場合は、医師の指示に従っている。日常よりペーパータオルの使用、手洗い等を徹底している。	○ 感染症に対して、勉強会を定期的開催していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は厨房にて管理している。ふきんや台所の水周りは、清潔、衛生を保つよう努めている。	○	水周りを清潔に気をつけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物が鉄筋造りで、施設的な雰囲気が強い。時期により、花などを置いて工夫しているが、通所リハビリとの兼ね合いもある。	○	植木鉢等を置き、明るい環境作りを目指していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物、置物などで、工夫している。	○	自由にテレビが見られるように心がけている。ご飯を炊くことで匂い、また、一部の方の食器を洗う音などで、少しは生活感を感じてもらっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で過ごせるようソファを置いたり、季節感を意識的に採り入れる工夫はしているが、独りになれる場所は居室のみとなっている。	○	座る場所が固定化し、トラブルになることがある。解決方法を検討中である。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や入居者の希望する物は持ち込まれ、少しでも居心地のよいように配慮している。	○	施設側で用意された備品のため、殺風景な統一した個性のない居室になっている。もう少し生活感のある、施設にしていく予定である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は行っており、入居者の方の発汗や冷え等の様子に注意して、空調の調節を行っている。	○	換気に注意を払っている。施設全体として、芳香剤などの設置を検討中である。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室やトイレには安全と自立が配慮され、理学療法士の方に見ていただきながら、手すりの設置が行われている。洗面台など問題がある個所については、現在検討している。	○	身体能力の合った安全環境作りを、個々に対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を招くような環境原因に対しては、速やかに対応している。	○	混乱、失敗があったときは職員が話し合い、統一したケアができるようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	以前過ごせていた外周りは、現在は工事を行っており、周囲の環境を活用することが困難な状態である。	○	ベランダの使用が可能となるように取り組み、働きかけていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、日ごろからあまり会話が難しい入居者の方であっても、顔を合わせるだけで安心感が生まれるように努力をしています。コミュニケーションがうまく取れない方でも、日ごろからやりとりを積み重ねることによって、新しい関係ができることに期待、自信を持ってかわり、その人の笑顔や心が和む瞬間を捉え、そこに働きかけるようにしています。私たちは、家族の方から大事な命を安心して任せられる施設と言っていただけるグループホームを目指しています。